

「元に戻る喜び」

エズラ記3章11節

聖学院幼稚園・小学校チャプレン 中村 謙一

11節には、「主の神殿の基礎が据えられたので、民も皆、主を賛美し大きな叫び声をあげた。」と書いてあります。今から2600年前、ユダにあったエルサレム神殿は約60年の間、破壊され礼拝ができない状態でした。戦争でバビロン軍がエルサレム神殿を破壊したからでした。そして、ユダの民はバビロンへ連れ去られました。ユダの民はバビロンという外国で、故郷を思いながら暮らしました。ユダの民は熱心に主なる神様に、罪が赦されますように祈り続けました。ユダの民は預言者たちによって与えられた神の言葉に聞き従わなかったことを心から悔い改めました。

するとどうでしょう、バビロン王国がペルシャ王国によって滅ぼされ、ペルシャ王国の新しい支配者キュロス王は、ユダの民を解放し、祖国イスラエルへ帰国させてくれたのでした。さらに、エルサレム神殿の再建も許可されました。今日の箇所は、エルサレム神殿の再建に必要な基礎石を据えた時の様子が記されています。恐らく、廃墟の中からソロモン王時代の神殿の土台の石を見つけて利用したものと考えられます。しっかりとした土台ができ、その上に神殿を築き、ユダの民は日常の礼拝生活へ戻ることができました。主なる神様に感謝し、民は喜びの賛美の声をあげました。それは大きな喜びの声となって遠くまで響いたと書かれています。

私たち、聖学院小学校も、新型肺炎の予防対策に協力するため、3月から長い間、自宅学習の日々を過ごしてきました。しかし、来週から、いよいよ、日常の学校生活へ戻ろうとしています。聖学院小学校は、来週から午前授業が始まります。クラスのお友達とも再会できます。先生とも直接会うことができます。私たちの心は、ユダの民と同じように、日常に戻る喜びと感謝でいっぱいになっていくでしょう。私たちの賛美の声も遠くまで響くことになるでしょう。

「主の神殿の基礎の石が据えられた」とあるように、私たちも、私たちの心にイエス様の聖書の御言葉を土台のように据え直すことになるでしょう。日常の礼拝と聖書の御言葉の学びが、聖学院小学校の学校生活の中で取り戻されていくからです。聖学院小学校の教室で聖句の暗唱が聞かれ、朝礼拝、クラス礼拝、全校礼拝において賛美の声が献げられるでしょう。もちろん、日常が取り戻されるとは言っても、完全に以前と同じ状態となるわけではありません。コロナ・ウィルスへの感染対策をしっかりやりながら、少しずつ元に戻ることにあります。

私たちの心に御言葉を据え直して前進する事は、プロテスタント宗教改革の精神でもあります。ルターやカルヴァンも、そのようにして教会の改革を聖書の御言葉によって進めました。教会の土台が据え直されました。イエス様を信じる信仰によってのみ、神の恵みで救われるという信仰義認説が守られました。聖学院は、米国のディサイプル派の宣教師が建てた学校です。聖学院は、プロテスタントのキリスト教の精神を受け継いでいます。聖学院小学校の地下にチャペルがあるのは、学校教育の土台に、礼拝で語られる御言葉が据えられているからであります。

コロナ・ウィルスの感染に負けることなく、私たちはイエス様の聖書の御言葉を土台として心に据え、強められ、励まされながら歩んで参りましょう。祈ります。

天の父、賛美されることを望まれ、喜ばれる神よ、私たちの日常を取り戻し、賛美の声をあなたに献げさせてください。私たちの心に、イエス様の御言葉を土台として据え強めてください。コロナと闘う世界中の人々をどうかお助けください。この祈り、十字架と復活の神の御子、主イエス・キリストの御名によって、御前にお献げ致します。アーメン。

2020年6月26日 聖学院小学校 ズーム学年礼拝